

式 辞

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

また、ご家族の皆様にも、心よりお祝いを申し上げます。

また、お忙しいところご臨席いただきましたご来賓の皆様に厚く御礼を申し上げます。

皆さんはこれから医療人として医療現場という新しい世界に足を踏み入れることとなります。是非、社会人としての強い自覚を持って活躍していただきたいと思います。

この場を借りて、一人の医療人として、皆さんにアドバイスしたいと思います。皆さんが働くことになる医療現場では、患者さんやその家族、すなわち人間と接することが医療人の大切な仕事となります。そのためには、人間をよく知ること、言い換えれば、人間の本質とは何かを考えることが非常に重要です。

人間の本質を見極めるためには、人間と動物の違いを知ること大きな助けとなります。人間と動物との大きな違いの一つは、人間は他者が亡くなったことを自分の事のように悲しむことです。人間は愛す

る人や、大切な人を亡くした人の悲しみは大きく、深いものであり、人によっては数十年間その悲しみが続く場合もあります。動物にも喜び、怒り、不安といった感情があります。しかし他者を亡くした悲しみ、例えば自分の子供が死んでも、その悲しみを長く持ち続けることはありません。

私の知り合いで、最近自分の子供さんの五十回忌の法事を勤められた方がおられました。五十年前に突然の事故で子どもさんを亡くされました。彼は私にこう話してくれました。「五十年たっても私の気持ち、悲しみはあの時と少しも変わっていないのですよ」と。

皆さんの中にも家族や友人を亡くされた経験を持つ人もおられることでしょう。親しい人の別れは本当につらく、悲しいことであると同時に私たち人間だけが味わうことができる、本当に大切に貴重な経験なのです。

皆さんがこれから進むことになる医療現場とは、病気やケガを治す場であり、また、つらく、悲しい別れの場でもあることを是非忘れずに覚えておいてください。

そのことが皆さんが将来医療人として、そして人間として成長するための土台となることでしょう。

私たち医療人が果たすべきは、患者さんの苦しみや家族の悲しみに
どう対処できるのかを問い続けることです。

本学の教育理念である「*Saluti et solatio aegrorum*（病める人びと
を医やすばかりでなく慰めるために）」を是非、改めて心に刻み込んで
くれることを願っております。

以上をもちまして私の式辞とさせていただきます。

本日は誠におめでとうございます。

令和 七年 三月 十一日

藍野大学学長

佐々木恵雲